

Pocket

つなぐ
ささえる
まもる

Take free

vol.12
2019年3月発行



ソーシャルワーカーは港に似ているかもしれない。受け入れて、繋ぐ。嵐がきても、きっと、大丈夫。

兵庫県社会福祉士会です。

あなたや家族の方が
生活の中で困ったことがあった時に、
お話をよくうかがって、
最も適したサービスに「つなぎ」、
生活を「ささえる」チカラになることが、
私たち社会福祉士の仕事です。
また、高齢の方や障害のある方を
「まもる」ため、
地域の自治体や弁護士などの
専門職と連携し、虐待防止にも
積極的に取り組んでいます。

社会福祉士と共に

特集

認知症を考える

「認知症と共に生きる」ために、
誰もが思い描く幸せのカチを追いかけて暮らせる
環境づくりと、私たちの心構えが大切です。
社会福祉士は、そんな社会の実現を目指して、
小さなことでもみなさんと一緒に考えます。



index

[特集] 丹野智文さんインタビュー「若年性認知症」	02
「認知症の人と家族の会 兵庫県支部」のご紹介	05
認知症サポーター・成年後見人のご紹介	06



たんのともふみ
丹野智文さん

「若年性認知症」

「若年性認知症の実態」

認知症は、高齢者に多い病気ですが65歳未満でも発症することもあります。現役世代で認知症になると仕事や子育てに大きな影響があることが一般的です。全国に若年性認知症の診断を受けている方は約40,000人であり、発症年齢は平均51.33歳で約3割が50歳未満で発症されています。また、発症から診断までに時間がかかることが多いと言われています。(厚生労働省)



丹野智文さん プロフィール

- 1974年 宮城県生まれ。東北学院大学を卒業
- 1998年 トヨタ系列の自動車販売会社に就職
トップセールスマンとして活躍
- 2013年 39歳で若年性アルツハイマー型
認知症と診断を受ける
- 2014年 国内初の当事者団体「日本認知症
ワーキンググループ」を設立
- 2015年 認知症の人が、不安を持つ当事者の
相談を受ける「おれんじドア」設立

著書「笑顔で生きる - 認知症とともに -」(文芸春秋)

インタビュー・文責:兵庫県社会福祉士会広報委員 小椋智子

若年性認知症の 当事者について

越智俊二さん

2004年に、京都市で開かれた国際アルツハイマー病協会国際会議で、多くの参加者の前で「もの忘れがあっても、いろいろなことができます。考えることもできます。あきらめずに生きていけるように、安心して普通に生きていけるように手助けをしてください」と訴えました。日本で初めて認知症の当事者が実状や気持ち

を伝えたことで、社会が認知症について深く考えるきっかけになりました。

それから9年後の2013年、丹野智文さんは、39歳の時にアルツハイマー型認知症の診断を受けました。

越智俊二さんが語った「病気になったことは本当にくやしいです。なぜと思う気持ちや、自分が自分でなくなる不安もあります。が、家族やまわりの方たちのおかげで、いいほうに考えることができています。これからの望みは、良い薬ができてこの病気が治ったらもう一度働きたい。どんな仕

診断当初のこと

アルツハイマーの診断を受けた時はどのような状態でしたか？

「事ができるかわかりません。どんな仕事でもいい。今度は私が働いて、妻を楽にしたい。そして今まで苦労かけた分、お返しをしたい。」という言葉を受け社会は変わったのでしょうか。丹野さんの言葉から考えてみましょう。

「いろいろな情報から認知症」

笑顔で生きるということ

どのようにして病気を
受け入れたのですか？

「前向きになったのは、私より先に不安を乗り越えた当事者の笑顔で、人に優しい当事者との出会いからでした。この人のように生きたいと思ったのが最初です。」
認知症の診断を受けて、これから先、どうなるのだろうと不安で仕方がなかったとき、前向きにしてくれたのは、自分より先に診断を受け、その不安を乗り越えてきた認知症当事者の方々との出会い

「多かったのです。そして、」

「多くの支援者との出会いで安心が出てきて笑顔になれたのだと思います。仲間からは最初は、作り笑いでも良いから笑ってなさいと言われました。そこからほんとの笑顔になったのです。」
認知症を悔やむのではなく、認知症と共に生きる道を歩み始めるためには、多くの人の支えがありました。忘れたことを、怒らず教えてくれる家族や仲間から力を得て希望をもって生きているから笑顔が素敵なのです。



認知症と共に6年、「人とのつながり」で自立が進む。



普通にお酒も女性も好き。

認知症と共に生きるという人と

初めて、私が丹野さんに出会ったのは、5年前(2014年)の講演でした。後で聞いたら、その講演は地元以外では初めての講演だったそうです。社会福祉士としての私の最初の印象は「こんなに当事者に頑張らしていいのだからか」「この人はどうしてこんなに淡々と自分に起こったことを話すのだろうか」と感じました。その後、講演以外の場で彼に出会うことがあったのですがどこから見ても「普通」にしか見えない彼は「認知症になって新しい出会いがあったし、できることも増えた」と言いました。その言葉で、認知症と共に生きるということについて深く考えました。



多くのパートナーと共に歩み続けます。

認知症により、「人の顔がわからなくなったり、忘れることがある」等日常生活の中で困ることもあります。しかし、それは認知症という丹野さんの一部でもあり彼



つどいの様子

「認知症の人と家族の会 兵庫県支部」のご紹介

にとつては当たり前の日常です。認知症になったことは決して不幸なことではありません。周囲の理解と合理的配慮、本人の「力」があれば、認知症と共によりよく生き続けることができるのです。そして、彼と関わる人が「認知症の人」「支援の対象者」ではなく、「普通」に接することで、彼は前を向いて笑顔で生きることができるようになります。

Q.1 どんな仕事をしていますか？

「総務人事務グループでみなさんと同じ仕事をしています。」
会社の理解と協力を得て、診断後も働き続けることができます。

Q.2 仕事を続けるために工夫していることは？

「記憶が悪いのですべてノートに書きながら仕事をしています。憶えていられなくてもすべて書くことで残るのです。」
病気を受容し、できないことをできるように自身で工夫しています。

「病気をオープンにして聞くようにしています」
隠すのではなく、オープンにすることで周囲の人は理解します。

公益財団法人 認知症の人と家族の会(家族の会)は全国47都道府県に支部があり、兵庫県支部では約240名の会員の皆様とともに、相談や啓発活動などのさまざまな取り組みを行っています。

つどい

毎月第3木曜日、13時〜15時に神戸市勤労会館で開催しています。日々の生活や介護の中での様々なお話を語り合います。医療・介護の専門職も参加しています。どなたでもお気軽にご参加ください。

電話相談

認知症の人の介護について、相談員がお話を伺います。
078-360-8477
へご相談ください。毎週月・金、10時〜16時に開催しています。

啓発ウォーク

県下各地で認知症についての「啓発ウォーク」を実施しています。

ることができるのです。認知症をオープンにするということとは私たちの想像以上に、本人、家族にとつてとても勇気のいることです。



仕事でも彼の笑顔で周囲が和みます。

Q.3 支援とか合理的配慮ってどんなことだと考えていますか？

「自分の意見をはっきり言える事、出来ない事は出来ないという自然に頼める事だと思えます。そしてお互いに助け合うことに抵抗がなくなる環境が必要。勝手に周りが決めつけてやってしまふのは合理的配慮ではない。」
認知症の中核症状には合理的配慮が必要です。それは、できないことをやってあげるのではなく、相互理解による信頼関係を基盤に当たり前の人間関係の中にある助け合いです。

「症状があっても、困らないように(本人が)工夫したり、助けを求めたりするだけで普通に生きられる。そのことを家族や支援者が、理解していない。認知症の人を「困った人」として捉え、過剰な

Q.4 家族に伝えたいことは？

「これから進行していても私は親としてやれることはやりたい。いままで関係を続けていけたらいいかな。」
社会福祉士は家族支援を付帯事項とはしません。家族も含め、本人の自立支援をすることが私たちの社会的役割です。本人と家族をしっかりとサポートすることが必要です。

Q.5 兵庫県のことは好きですか？

「きれいな街並みが好き。そして人も好き。」
これまで回数、兵庫県でも講演をしてきています。

兵庫県社会福祉士会では今年6月22日、丹野さんの講演会を開催します。

丹野さんの講演会には、会員のみさんだけではなく、県民のみさんもお参加できます

オレンジ色のジャンパーにサンバイザー、のぼりをもって、地域の当事者・家族の会の皆様とともに認知症についての理解を呼び掛けています。

支部だより

本部が発行する機関紙「ぼくぼく」とともに、兵庫県支部だよりを発行しています。つどいの様子やイベントのお知らせ・報告、世話人によるコラムなど、読みどころ満載の支部だよりです。会員向けに毎月1度発行しています。他にも、昨年度から兵庫県委託事業として「認知症カフェ研修・連絡会」を開催しています。今年も但馬と神戸の2会場で12月に実施し、認知症カフェの交流の場や活性化するヒントを得る場になっています。

また、9月の世界アルツハイマーデーには記念講演会を開催し、毎年さまざまな専門家の先生から医療や介護についてのお話を伺ったり、

姫路城をオレンジ色にライトアップする「ひめじおれんぢプロジェクト」では世話人もプロジェクト委員として啓発活動に参加しています。その他、大学等での講義で認知症の人と家族の介護体験をお話したり、介護等制度や条例策定への会議に参加し認知症の人と家族の声を届けたり、毎年年末には宿泊での「年忘れ会」を開催したりするなど、活発な活動を行っています。

家族が認知症になつたときに家族の中だけで抱え込んでしまうと、生活や介護のことが大きな不安となつてしまふもの。ご本人や家族の方、すでに介護を卒業された家族の方や専門職と交流して、みんなで考えて取り組むことで、家族の方の気持ちのリフレッシュやよりよい介護につながることでしよう。

「どうしたらいいかな、心配だな、不安だな、これからどうなるのか





「認知症サポーターとは」

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組んでいます。

認知症サポーター養成講座は、地域住民、金融機関やスーパーマーケットの従業員、小中、高等学校の生徒など様々な方に受講いただいています。

「認知症サポーターに期待されること」
1: 認知症に対して正しく理解し、偏見をもたない。
2: 認知症の人や家族に対して温かい目で見守る。

3: 近隣の認知症の人や家族に対して、自分なりにできる簡単なことから実践する。

4: 地域でできることを探し、相互扶助・協力・連携、ネットワークをつくる。
5: まちづくりを担う地域のリーダーとして活躍する。

「認知症サポーター養成講座」

認知症サポーター養成講座は、地域や職域団体等で、住民講座、ミニ学習会として開催しています。

受講をご希望の場合には、在住・在勤・在学の自治体事務局へお問い合わせ下さい
全国の自治体事務局一覧(全国キャラバン・メイト連絡協議会Eより)
<http://www.caravanmate.com/office/>

認知症とともに暮らす方を支えるための仕組みの一つ、成年後見制度をご存知でしょうか。

認知症を抱えながら暮らしていると特定のことに對する判断能力が不十分になり、それまで一人で行っていたことが難しくなることがあります。例えば、不動産や預貯金など財産の管理、介護サービス・施設との契約、ローンの返済、役所への各種申請などです。

成年後見制度は、こういった大事な手続きを誰かにサポートしてもらい安心して暮らしていけるよう、認知症や精神障害を抱えながら生活する方を法的に支援する制度です。

成年後見制度は、家族が遠方にお住いの方や誰も身寄りがない方、主たる介護者が高齢や病気が

成年後見人

で負担が大きい方、ご家族様のお仕事や育児・介護のことで忙しい方など、身近な支援者だけでは担えない、本人の意思を尊重した財産管理や身の周りのことへの配慮などを社会で担うという理念のもと、本人の最善の利益のために一緒に考え、サポートしてくれます。

読者の皆さんや、その親族の方、地域の方のことで成年後見制度の利用や手続き、費用についてより詳しく知りたいときは、お住いの市町村の成年後見センター、地域包括支援センター、病院など、社会福祉の専門職「社会福祉士」がいる相談窓口にぜひお尋ねください。



●認知症を支える社会資源●

兵庫県社会福祉士会
会員紹介キャンペーン

兵庫県社会福祉士会に入会を検討している方をご紹介ください。会員のみならずにも、正会員として新しく入会された方にも、喜んでいただける特典をご用意しております。



兵之助くん

ご紹介特典

ご紹介いただいた
本会会員（あなた）には

QUO カード 1,500 円分
プレゼント!!

※ご紹介いただいた方の本会年会費の振り込み確認後、QUO カードを発送させていただきます。
※紹介者数の上限はありませんので、何人でもご紹介いただけます。紹介者一人につき 1,500 円の QUO カードをプレゼントします。入会申込書については、下記事務局よりお送りしますので、お問い合わせください。

正会員としてご入会いただいた
新会員の方にも

QUO カード 1,500 円分
プレゼント!!

※本会年会費の振り込み確認後、QUO カードを発送させていただきます。

さ・ら・に!!

- ・兵之助くん入り本会オリジナルクリアフォルダーをプレゼント!!
- ・新入会員イベント（6月22日）へのご招待!
- ・再入会者には入会金（5,000円）を本会が補助!

キャンペーン期間

2019年4月1日～2019年9月30日

【紹介方法】

裏面の申込書に必要事項を記入の上、本会事務局まで FAX または E-mail にてお申込みください。

兵庫県社会福祉士会事務局
TEL:078-265-1330 FAX:078-265-1340
E-mail: entry@hacsw.or.jp

兵庫県社会福祉士会に入会すると
こんな良いことがたくさんあります!

研修会へ参加し、自己研鑽の機会が豊富!
しかも、会員価格で受講できます。

最新情報や就職情報の
入手が可能になります

出版物が割引購入できます

など...他にもいろいろあります!



おかげさまで 10年!!
うすき行政書士事務所
(うすき社会福祉士事務所併設)

- いずれかに当てはまる方は是非一度お問い合わせください!
- 福祉サービス事業所を立ち上げたい
 - 新しく会社やNPOを興したい
 - 認定NPO等の準備を考えている
 - 社会福祉法人の運営支援をしてほしい
 - 遺言書、遺産分割、相続手続きに悩んでいる

うすき行政書士・社会福祉士事務所 (大口事務所 併設)
兵庫県西宮市本町7番15号 (西宮えびす神社そば)



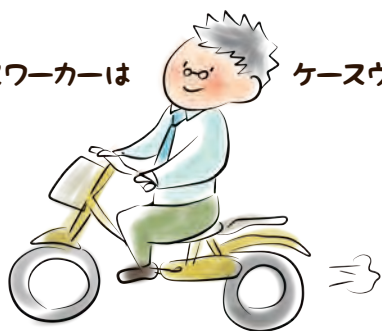
ご相談はこちらまで、
どこでも駆けつけます!

お電話はこちら!
0798-34-3999
090-9264-7594
sp8c6h89@aurora.ocn.ne.jp

誰もが歳をとれば認知症になるかもしれない「自分ごと」として捉えていく必要があります。「あなたが認知症になっても私が認知症になってもお互い様」助け合って暮らしていくことが必要です。認知症は避けるべきもの防ぎたいものからそろそろ卒業して「誰もが認知症になる」ことを前提として、忘れることに備える「備忘(ビボウ)」を心掛けませんか。

1 定期訪問をしたり

ケースワーカーは ケースワーカー♪



1

2 来所訪問を受けたり

収入申告書
持って
きましたよー

ケース記録
記事の作成中

はい!
こんにちは



2

3 「収入認定変更起案」の 入力作業をしたり

入力するぞ～

さあさあ!頑張って
入力だ～!

ウイ～ン!



3

4 保護手帳を調べて 職員で相談

そろそろ
単身生活が
不安なようで…

サ高住への
入居は
どうかなあ?



4

こんどうさん：生活保護法は、健康で文化的な最低限度の生活と自立の助長を目的としています。



兵庫県社会福祉士会は
様々な事業活動を通じ
社会に貢献することに
努めています。

事業活動

- ・社会福祉に関する情報提供及び相談事業
- ・権利擁護に関する相談事業
- ・成年後見・後見監督に関する事業
- ・社会福祉士等の養成支援に関する事業
- ・地域包括支援センターへの支援に関する事業
- ・社会福祉従事者研修に関する事業
- ・生活困窮者支援に関する事業
- ・高齢者虐待・障害者虐待防止等に関する事業
- ・児童虐待防止・子育て支援等子ども家庭支援に関する事業
- ・福祉サービスの質の向上のための評価に関する事業
- ・社会福祉及び社会福祉士に関する調査研究事業
- ・県・市町の福祉計画への参画・提言
- ・その他、この法人の目的を達成するために必要な事業



編集後記

認知症「予防」や認知症のない人生があたかも幸せであるかのように強調されて久しいです。でも、誰もが認知症になり得るんですよ。認知症を「思わべきもの」になってしまったら人生終わり」と考えるのではなく、認知症を抱えながらも、誰もが、思い描く幸せのカタチを追求して暮らせる環境づくり・私たちの心構が大切ですね。社会福祉士は、そんな社会の実現を目指して、小さなことでもみなさんと一緒に考えます。ぜひ、お近くの社会福祉士とお話ししてみてくださいね。

この一枚 「BE KOBE」 撮影者:Yoko Kadoさん



「BE KOBE」は「神戸の魅力は人である」という思いのメッセージです。

